

メインシナリオ／グランド第4回
『あなたのための希望のうた 第4話』 個別リアクション

『正体不明の不安感』

少し気になることがある、と言ったきりリルダは蒸しパンを咀嚼するだけで何も言わなくなってしまう。

けれど、トモシは先を促すことはせず、ハーブティを飲んでいる。

しばらくして、リルダの口が再び開いた。

「わからないことがあるんだけど……」

トモシは黙っていた。

「最近、アンセルさんの行動がどうにも気になって。自警団はよくやってくれていると思うの。実際、良い評判も耳にしたし。バート君からも、助かってるって聞いたし。でも、どうしてかなあ…何か妙に……ざわざわする。町のために動いてくれたアンセルさんに、こんな落ち着かない気持ち、持ったらいけないのに」

リルダは今、とてもちぐはぐな感覚を抱えていた。

「やだなあ。こんなのまるで……」

「恋してるみたい？ ……ごめん、冗談。そんな蜘蛛の巣を見るような目で見ないで」

軽く咳払いをしたトモシは、改めて口を開いた。

「自警団の評判はいいよ。俺も耳にしてる。リルダさんの不安の原因はわからないけど、それならしばらく様子を見てみたらどうかな。もし何か良からぬことを企んでいるならおのずと見えてくるだろうし、そうじゃないならただの勘違いってことで」

勘違いなんて誰にでもあるしね、とのんびりした笑みを浮かべるトモシ。

「そう、だね……。私自身の感覚も定まらないままあれこれ考えても仕方ないか。聞いてくれてありがとう」

「いえいえ、お安い御用で」

「そういえば、占いやるんだよね？ 畑の作物が順調に育つか占ってくれる？」

一変して明るい口調になったリルダの要望に、トモシは喜んで応じたのだった。

こちらのリアクションは以下のPCに発行されています。

トモシ・ファーロ